

就職演習

(授業概要)

本授業は、動物業界を中心とした就職活動に必要な実践的スキルと社会人基礎力を身につけることを目的とする。ジョブカード作成や自己分析を通して自身の適性や強みを理解し、面接対策や模擬面接、AI 面接演習を通じて、選考に対応できる表現力と対応力を養う。また、研修旅行の事前・事後学習を通して職場理解を深め、業界研究と自己理解の統合を図る。さらに、入退室マナー、席次、名刺交換などのビジネスマナーを実践的に学び、社会人として必要な基本行動を習得することで、就職活動に主体的に取り組む姿勢と実践力の向上を目指す。

科	生命科学科	教員	荻野
コース	動物園ゼミ	教員の実務経験	社会人経験 8 年
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

選考において動作・礼儀などのパフォーマンスを最大限に発揮し内定を獲得する。

頻出質問・業界特有質問の回答が適切に行えるように実践的に模擬面接や AI シミュレーションなどを用い準備を行うことができる。

授業計画

- 1 回 自己紹介、アイスブレイク
- 2 回 面接対策(頻出質問の紹介と対策)、ジョブカード作成(自己分析)
- 3 回 面接対策(業界特有の質問紹介と対策)、ジョブカード作成ジョブカード作成(自己分析)
研修旅行事前学習①—訪問先・施設調べ (グループワーク)
- 4 回 AI 面接アプリ紹介と対策
研修旅行事前学習②—就職先として見る視点・質問検討
- 5 回 AI 面接実践期間①
研修旅行事後学習①—見学内容の整理と共有
- 6 回 AI 面接実践期間②
研修旅行事後学習②—就職先としての魅力と課題
- 7 回 第 1 回模擬面接実践期間①
研修旅行事後学習③—就職先比較と理解の深化
- 8 回 第 1 回模擬面接実践期間②
- 9 回 入退室のマナーについて

- 10 回 入退室実践期間①
- 11 回 入退室実践期間②
- 12 回 入退室実践期間③
- 13 回 第 2 回模擬面接実践期間①
- 14 回 第 2 回模擬面接実践期間②
- 15 回 第 2 回模擬面接実践期間③
- 仕事内容理解①—就職先に想定される職種（含 研修旅行事前学習）
- 16 回 第 3 回模擬面接実践期間①
- 仕事内容理解②—職種別業務内容（含 研修旅行事前学習）
- 17 回 第 3 回模擬面接実践期間②
- 仕事内容理解③—1 日の仕事の流れ（含 研修旅行事前学習）
- 18 回 第 3 回模擬面接実践期間③
- 仕事内容理解④—必要な知識・技術・姿勢（含 研修旅行事前学習）
- 19 回 第 4 回模擬面接実践期間①
- 研修旅行事後学習①—仕事内容の整理
- 20 回 第 4 回模擬面接実践期間②
- 研修旅行事後学習②—仕事のやりがい・大変さ
- 21 回 第 4 回模擬面接実践期間③
- 研修旅行事後学習③—自分との適性を考える
- 22 回 席次①(座学)
- 23 回 席次②(座学)
- 24 回 席次③(実践)
- 25 回 席次④(実践)
- 26 回 名刺交換①(座学)
- 27 回 名刺交換②(座学)
- 28 回 名刺交換③(実践)
- 29 回 名刺交換④(実践)
- 30 回 総復習、振り返り

授業の方法

実戦経験を積むために就職や今後のキャリア形成に繋がる訓練を繰り返し行う。

教材

自作プリントを必要に応じて配布する。

評価の方法

期末試験 50%、授業への参画 50%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

面接質問の回答をノートに書き出しまとめる。

実務経験と授業科目の関係

実際の就活経験や社会人経験を踏まえ、学生のキャリア形成を支える。

プレゼンテーション概論

授業の目的・概要

本授業は、動物業界をはじめとする様々な分野で必要となる「伝える力」を身につけることを目的とする。プレゼンテーションの基本構成、分かりやすい話し方、資料作成の方法を学び、相手に正確かつ魅力的に情報を伝える力を養う。また、テーマ設定や情報収集、スライド作成、発表練習を通して論理的に考え、整理して表現する力を身につける。さらに、グループ発表や振り返りを通じて、協調性や改善力を高め、実践的な発表スキルの向上を目指す。

科	生命科学科	教員	濱崎
コース	動物園ゼミ	教員の実務経験	-
対象年次	2 年次生	年間単位時間	2 単位

目標

- ・聞き手に分かりやすく情報を伝えるプレゼンテーションの基本技術を身に付けることができる。
- ・目的に応じて情報を整理し、構成を考えて発表内容を作成することができる。
- ・スライドや資料を活用し、視覚的に分かりやすい発表を行うことができる。
- ・他者の発表を参考にしながら改善点を見つけ、表現力を高めることができる。

授業計画

第 1 週	オリエンテーション（授業の進め方・評価方法）
第 2 週	プレゼンテーションとは何か
第 3 週	伝える力の基本
第 4 週	話の組み立て方①（導入・結論）
第 5 週	話の組み立て方②（本論）
第 6 週	分かりやすい説明のコツ
第 7 週	声の出し方・話し方の基本

第 8 週	表 情 と ジ ェ ス チ ャ ー
第 9 週	聞 き 手 を 意 識 す る 話 し 方
第 10 週	テ ー マ 設 定 の 方 法
第 11 週	情 報 の 集 め 方
第 12 週	資 料 の ま と め 方
第 13 週	ス ラ イ ド 作 成 の 基 本 ①
第 14 週	ス ラ イ ド 作 成 の 基 本 ②
第 15 週 発表練習①	
第 16 週	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン (後 期 内 容 説 明)
第 17 週	構 成 の 見 直 し と 改 善
第 18 週	分 か り や す い ス ラ イ ド 作 成
第 19 週	発 表 原 稿 の 作 成
第 20 週	話 す 練 習 と 時 間 調 整
第 21 週	グ ル ー プ 発 表 準 備 ①
第 22 週	グ ル ー プ 発 表 準 備 ②
第 23 週	リ ハ ー サ ル ①
第 24 週	リ ハ ー サ ル ②
第 25 週	本 番 発 表 ①
第 26 週	本 番 発 表 ②
第 27 週	発 表 の 振 り 返 り
第 28 週	改 善 点 の 整 理
第 29 週	応 用 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン
第 30 週 総まとめ・最終発表	

授業の方法

演習形式を中心に進めていき、グループワークやディスカッションをする機会も設けていく。

教材

特に指定はしないが、必要な教材は適宜授業中に配布していく。

評価の方法

成果発表 60%、授業への参画 40%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、発表テーマに関連する情報を調べ、要点を整理し、自分の考えをまとめる準備を行う。また、構成や話す内容を事前に考えておく。事後学習では、授業で行った発表や指導内容を振り返り、改善点や課題を整理することで、次回の発表に向けて表現力や構成力の向上を図る。

実務経験と授業科目の関係

-

資格対策

授業の目的・概要

本授業は、動物関連分野で必要となる基礎的な資格取得を目指し、専門知識の定着と試験対応力の向上を図ることを目的とする。4級・3級の問題演習と解説を通して、基礎知識を段階的に理解し、繰り返し学習することで確実な定着を図る。また、ビオトープ管理士試験に向けた演習を通して、環境や生態系に関する知識を深める。さらに、試験対策を継続的に行うことで、問題形式への対応力や時間配分の感覚を身につけ、資格取得に必要な実践的な学習習慣と自己学習力の向上を目指す。

科目名	資格対策	教員	吉原
コース	動物園ゼミ	教員の実務経験	-
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

生物分類技能検定合格に必要な知識を身に付けることができる。

後期

生物分類技能検定 3 級に合格することができる。

ビオトープ管理士合格に必要な知識を身に付けることができる。

授業計画

- 1 回 アイスブレイク、自己紹介
- 2 回 資格取得の意義、スケジュールについて
- 3 回 4 級の問題と解説
- 4 回 3 級の問題と解説①(1 回で 4～5p)
- 5 回 3 級の問題と解説②
- 6 回 3 級の問題と解説③
- 7 回 3 級の問題と解説④
- 8 回 3 級の問題と解説⑤
- 9 回 3 級の問題と解説⑥
- 10 回 3 級の問題と解説⑦
- 11 回 3 級の問題と解説⑧
- 12 回 3 級の問題と解説⑨

- 13 回 3 級の問題と解説⑩
- 14 回 試験対策
- 15 回 試験対策
- 16 回 3 級試験の対策
- 17 回 3 級試験の対策
- 18 回 3 級試験の対策
- 19 回 3 級試験の対策
- 20 回 ビオトープ管理士問題と解説①
- 21 回 ビオトープ管理士問題と解説②
- 22 回 ビオトープ管理士問題と解説③
- 23 回 ビオトープ管理士問題と解説④
- 24 回 ビオトープ管理士問題と解説⑤
- 25 回 ビオトープ管理士問題と解説⑥
- 26 回 ビオトープ管理士問題と解説⑦
- 27 回 ビオトープ管理士問題と解説⑧
- 28 回 ビオトープ管理士問題と解説⑨
- 29 回 試験対策
- 30 回 試験対策

授業の方法

講義(問題集を使用した対策)

教材

生物分類技能検定事務局『2025 年度 生物分類技能検定 試験問題集 3 級・4 級』(一般財団法人 自然環境研究センター)

『改訂 2 版 生物分類技能検定 3 級・4 級解説集』(一般財団法人 自然環境研究センター)

ビオトープ管理士

評価の方法

期末試験 80%、授業態度・出席率 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

試験に備え、過去の問題を繰り返し解く。

2026 年度

実務経験と授業科目の関係

陸上実習

授業の目的・概要

本授業は、バスケットボール、バドミントン、バレーボール、サッカー、ドッジボールなどの各種スポーツを通して、基礎的な運動技能と体力の向上を図ることを目的とする。各競技の基本動作やルールを理解し、練習試合やチーム対抗戦を通じて実践力を身につける。また、グループでの活動を通して協調性やコミュニケーション能力を養い、チームワークの重要性を理解する。さらに、体力トレーニングや体力テストを通して自己の体力を把握し、健康維持・増進への意識を高めることで、社会生活に必要な基礎体力と行動力の向上を目指す。

科	生命科学科	教員	神垣 厚治
コース	動物園ゼミ（前半・後半）	教員の実務経験	ダンスインストラクター15年
対象年次	2年	年間単位数	2単位

目標

1. ルール、マナー、協調性の理解と育成

→競技ごとのルールや、安全に活動するためのマナー、仲間と協力する力やコミュニケーション力を養う。

2. 健康意識の向上

→運動の大切さを理解し、日常生活でも健康を意識する習慣を身につける。

3. 記録への挑戦

→目標を立てて記録向上を目指すことで、達成感や努力する姿勢を身につける。

授業計画

- 第1週 授業説明(実施場所、用具取り扱い、注意点)・バスケット（バス・シュート基礎）
- 第2週 バスケット（レイアップ・フリースロー基礎）
- 第3週 バスケット（ドリブル・5対5練習試合）
- 第4週 バドミントン（素振り・リフティング基礎）
- 第5週 バドミントン（下半身を鍛えるフットワーク基礎）

- 第6週 バトミントン（2対2練習試合）
 第7週 バレーボール（パス・レシーブ基礎）
 第8週 バレーボール（サーブ・スパイク基礎）
 第9週 バレーボール（6対6練習試合）
 第10週 ドッチボール（投げ合い練習基礎）
 第11週 スポーツ大会練習期間 各競技（バスケット・バトミントン・バレー・ドッチボール等）
 第12週 スポーツ大会練習期間 各競技（バスケット・バトミントン・バレー・ドッチボール等）
 第13週 外周・筋力トレーニング（学校の外周・腕立て・腹筋基礎）①
 第14週 外周・筋力トレーニング学校の外周・腕立て・腹筋基礎）②
 第15週 前期試験テスト練習（体力テスト・立ち幅跳び・垂直飛びなど）①
 第16週 前期試験期間（シャトルラン）②
 第17週 前期試験採点期間 前期のまとめ（各スポーツ練習試合）①
 第18週 前期試験返却期間（各スポーツ練習試合）②

後期

- 第19週 ドッチボール（攻撃・守備・セーフ・アウト基礎）①
 第20週 ドッチボール（攻撃・守備・セーフ・アウト基礎）②
 第21週 ドッチボール（チーム分け対抗試合）
 第22週 サッカー①ー（リフティング）
 第23週 サッカー②ー（パス・ドリブル）
 第24週 サッカー③ー（チーム対抗試合）
 第25週 バスケットー（チーム対抗試合）
 第26週 バトミントンー（チーム対抗試合）
 第27週 ドッチボールー（チーム対抗試合）
 第28週 サッカーー（チーム対抗試合）
 第29週 後期試験練習（シャトルラン）
 第30週 後期試験期間（シャトルラン）
 第31週 後期試験採点期間 後期のまとめ・（各スポーツ練習試合）①
 第32週 後期試験返却期間 試験の振り返り（各スポーツ練習試合）②
 第33週 ドッチボール・バレーボール（チーム対抗戦）①
 第34週 ドッチボール・バレーボール（チーム対抗戦）②
 第35週 競技選択（各スポーツ練習試合）

授業の方法

実技・体力テスト

教材

なし

評価の方法

期末試験 40%、授業への参画 40%、問題演習の取り組み姿勢 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

各自、授業外でのストレッチや補強トレーニング

実務経験と授業科目の関係

主にルール、マナー、協調性への理解は社会に出ていく中で、必要不可欠なものになるので、自身の実体験を含めながら説明していく。

インターンシップⅡ

授業の目的・概要

本授業は、動物業界への就職を目指す学生が、インターンシップを通じて実際の職場環境を体験し、専門知識・技術の実践力を養うことを目的とする。動物病院、ペットショップ、トリミングサロン、ペットホテル、動物福祉施設などの現場において、動物の飼養管理や健康観察、接客対応、衛生管理、チームでの業務遂行などを経験し、職業人として求められる責任感やコミュニケーション能力を身に付ける。また、現場での体験を通じて自己の適性や課題を把握し、将来の進路選択や就職活動に役立てることを目指す。事前指導では職業倫理や安全管理について学び、実習後には振り返りと成果報告を行うことで、学習成果の定着とキャリア形成につなげる。

科	生命科学科	教員	林
コース	全ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・動物業界の現場における業務内容や役割を理解し、基本的な業務を適切に実践できる。
- ・動物の飼養管理、健康観察、衛生管理などに関する実践的な知識・技術を身に付ける。
- ・職業人として必要なビジネスマナー、コミュニケーション能力、協調性を身に付け、円滑に行動できる。
- ・インターンシップで得た経験を振り返り、自身の適性や課題を把握するとともに、将来の進路選択や就職活動に活かすことができる。

授業計画

- 第1回 インターンシップ概要説明・目的理解・受入先の紹介
- 第2回 ビジネスマナー・職業倫理・安全管理・注意事項説明
- 第3回 インターンシップ① 施設理解とオリエンテーション

第 4 回	インターンシップ②	施設見学と業務内容の把握
第 5 回	インターンシップ③	接客・来客対応の補助
第 6 回	インターンシップ④	電話対応・受付業務の補助
第 7 回	インターンシップ⑤	施設内清掃・衛生管理業務
第 8 回	インターンシップ⑥	飼育環境の整備と安全確認
第 9 回	インターンシップ⑦	動物の健康観察と記録
第 10 回	インターンシップ⑧	給餌・給水業務の補助
第 11 回	インターンシップ⑨	動物の保定補助
第 12 回	インターンシップ⑩	日常ケア業務の補助
第 13 回	インターンシップ⑪	施設備品・消耗品管理
第 14 回	インターンシップ⑫	顧客対応・コミュニケーション実践
第 15 回	インターンシップ⑬	チーム業務への参加
第 16 回	インターンシップ⑭	担当業務の実践①
第 17 回	インターンシップ⑮	担当業務の実践②
第 18 回	インターンシップ⑯	担当業務の実践③
第 19 回	インターンシップ⑰	担当業務の実践④
第 20 回	インターンシップ⑱	担当業務の実践⑤
第 21 回	インターンシップ⑲	担当業務の実践⑥
第 22 回	インターンシップ⑳	担当業務の実践⑦
第 23 回	インターンシップ㉑	担当業務の実践⑧
第 24 回	インターンシップ㉒	担当業務の実践⑨
第 25 回	インターンシップ㉓	担当業務の実践⑩
第 26 回	インターンシップ㉔	担当業務の実践⑪
第 27 回	インターンシップ㉕	担当業務の実践⑫
第 28 回	インターンシップ㉖	担当業務の実践⑬
第 29 回	インターンシップ㉗	担当業務の実践⑭
第 30 回	インターンシップ㉘	担当業務の実践⑮

- 第 31 回 インターンシップ②③ 担当業務の実践⑥
 第 32 回 インターンシップ②③ 担当業務の実践⑦
 第 33 回 インターンシップ②③ 担当業務の実践⑧
 第 34 回 インターンシップ②③ 総合実践・就業力向上
 第 35 回 インターンシップ成果報告会・振り返り・自己評価と今後の課題整理

授業の方法

インターンによる実践。

教材

必要な資料を概要説明時に配布する。

評価の方法

インターンへの参加意欲 20%、企業の評価 50%、レポート提出 30%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、受入先の業務内容や業界動向について調べるとともに、ビジネスマナーや安全管理、動物の飼養管理に関する基礎知識を復習する。事後学習では、実習日誌や記録を整理し、実習で得た知識・技術や課題を振り返ることで理解を深め、今後の学習や就職活動に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、インターンシップにおける職業意識の形成や社会人基礎力の向上を支援するとともに、実習経験を将来の進路選択や就職活動につなげるための指導を行う。

特別活動

授業の目的・概要

学校行事への参加を通じて、専門分野への理解を深めるとともに、協調性や主体性、社会性を養う。各種行事における事前準備、参加、振り返りを通じて学びを深化させ、将来の職業人として必要な資質の向上を目指す。

科	生命科学科	教員	林
コース	全ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・学校行事の目的や意義を理解し、主体的に参加できる。
- ・行事を通じて専門分野への理解を深め、学びを実践に結び付けることができる。
- ・他者と協力しながら活動に取り組み、協調性や社会性を身に付ける。
- ・行事で得た経験を振り返り、自己の成長や課題を今後の学習・進路選択に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 特別活動の目的と年間計画の理解
- 第 2 回 学校行事に参加する意義と学習目標の設定
- 第 3 回 研修旅行事前学習①（研修目的の理解）
- 第 4 回 研修旅行事前学習②（訪問先・業界研究）
- 第 5 回 研修旅行事前学習③（グループ活動計画の作成）
- 第 6 回 研修旅行事前学習④（安全管理・マナーの確認）
- 第 7 回 研修旅行事前学習⑤（事前調査の共有）
- 第 8 回 研修旅行への参加
- 第 9 回 研修旅行振り返り①（体験内容の整理）

- 第 10 回 研修旅行振り返り②（学習成果の共有）
- 第 11 回 校外実習事前学習①（実習目的の理解）
- 第 12 回 校外実習事前学習②（実習先研究）
- 第 13 回 校外実習事前学習③（安全管理とマナー）
- 第 14 回 校外実習事前学習④（学習課題の設定）
- 第 15 回 校外実習への参加
- 第 16 回 校外実習振り返り①（活動内容の整理）
- 第 17 回 校外実習振り返り②（成果と課題の分析）
- 第 18 回 KAP エキスポ事前学習①（イベントの目的と業界動向の理解）
- 第 19 回 KAP エキスポ事前学習②（企業研究・出展内容の確認）
- 第 20 回 KAP エキスポ事前学習③（見学計画の作成）
- 第 21 回 KAP エキスポ事前学習④（質問事項の作成）
- 第 22 回 KAP エキスポへの参加
- 第 23 回 KAP エキスポ振り返り①（見学内容の整理）
- 第 24 回 KAP エキスポ振り返り②（学習成果の共有）
- 第 25 回 卒業研究発表会事前学習①（研究テーマの理解）
- 第 26 回 卒業研究発表会事前学習②（発表の着眼点と評価方法）
- 第 27 回 卒業研究発表会事前学習③（専門知識の整理）
- 第 28 回 卒業研究発表会への参加
- 第 29 回 卒業研究発表会振り返り・学習成果の共有
- 第 30 回 年間活動の総括（自己評価・今後の目標設定）

授業の方法

演習形式で進めていき、グループワークや意見交換を積極的に取り入れていく。

教材

特にないが、必要に応じて資料を配布していく。

評価の方法

授業への参画 30%、成果発表 50%、レポート提出 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、各行事の目的や内容、関連する業界・専門知識について調査し、学習課題を明確にする。
事後学習では、活動記録やレポートを作成し、得られた知識や気づきを整理するとともに、自身の成長や課題を振り返り、今後の学習や進路形成に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、各種学校行事への参加を通じた主体的な学びや職業意識の形成を支援する。また、活動前後の目標設定や振り返りを通じて、行事で得た経験を自己成長やキャリア形成につなげられるよう指導を行う。

動物関連法規学Ⅱ

(授業概要)

本授業は、動物や野生生物を取り巻く法規制について体系的に理解し、動物関連分野で必要となる法令遵守意識と実践的判断力を身につけることを目的とする。外来生物法を中心に、外来種の定義や導入経路、特定外来生物の規制内容、罰則について学び、環境保全の重要性を理解する。また、ワシントン条約や種の保存法を通して希少野生動植物の保護制度について学び、国内外の生物多様性保全の仕組みを理解する。さらに、鳥獣保護管理法や漁業法、水産資源保護法についても学習し、動物と人間社会の関係を法的観点から総合的に考察できる力の育成を目指す。

科	生命科学科	教員	井田 電馬
コース	動物園ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位	1 単位

目標

- ・外来生物法、ワシントン条約などについて理解できる。
- ・種の保存法、鳥獣保護法、漁業系の法律などについて理解できる。

授業計画

- 1回 外来種と外来生物 (1) 言葉の定義
- 2回 外来種と外来生物 (2) 導入経路 その1
- 3回 外来種と外来生物 (3) 導入経路 その2
- 4回 外来生物法 (1) 施行年、目的など
- 5回 外来生物法 (2) 特定外来生物 その1
- 6回 外来生物法 (3) 特定外来生物 その2
- 7回 外来生物法 (4) 特定外来生物 その3
- 8回 外来生物法 (5) 未判定外来生物、種類名証明書が必要な生物
- 9回 外来生物法 (6) 罰則
- 10回 ワシントン条約 (1) 日本語と英語の正式名称
- 11回 ワシントン条約 (2) 条約の成立背景、プロフィールなど
- 12回 ワシントン条約 (3) レッドリストとの違い
- 13回 ワシントン条約 (4) 留保
- 14回 ワシントン条約 (5) 附属書Ⅰについて その1
- 15回 ワシントン条約 (6) 附属書Ⅰについて その2
- 16回 ワシントン条約 (7) 附属書Ⅱ、附属書Ⅲ

17回	種の保存法（1）法律の概要	
18回	種の保存法（2）国内希少野生動植物種	その1
19回	種の保存法（3）国内希少野生動植物種	その2
20回	種の保存法（4）国内希少野生動植物種	その3
21回	種の保存法（5）国際希少野生動植物種	その1
22回	種の保存法（6）国際希少野生動植物種	その2
23回	種の保存法（7）国際希少野生動植物種	その3
24回	種の保存法（8）緊急指定種	
25回	鳥獣保護法（1）	
26回	鳥獣保護法（2）、	
27回	漁業法（1）	
28回	漁業法（2）	
29回	水産資源保護法（1）	
30回	水産資源保護法（2）	

授業の方法

講義

教材

テキスト、自作のプリント

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

1回1回の授業ノートに関してポイントを各自纏めなおし、随時チェックする。

実務経験と授業科目の関係

長らく野生動物の分野の法律に関わる業務を行っており、また、狩猟者として狩猟制度や実際に出猟したりなど人と動物の関わりについて実践的に経験している。それらの経験を下地に、主に野生動物と法律がどのように関わっているのか、今後、プロとして野生動物などに関わっていく上で知っておくべきポイントを伝える。

動物園学Ⅱ

(授業概要)

1年次で履修した動物園に関する基礎的内容に加え、飼育係に必要な飼育手法、輸送、繁殖、トレーニング等に関しより実践的で具体的な知識を習得する。また動物展示において先進的なヨーロッパ、アメリカ、アジアの動物園の映像を視聴して見識を広める。

科	生命科学科	教員	花木久実子
コース	動物園ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年次	年間単位時間	1単位

目標

前期

- ①動物園で飼育されている脊椎動物を中心に、飼育や環境教育等で必要となる個々の動物の特徴的な器官や役割について学習する。
- ②動物園での展示手法、動物園で行われている調査研究、種の保存において重要な野生動物の繁殖生理学について学習する。

後期

- ①動物園での動物ごとの具体的な飼育方法、動物福祉の立場からエンリッチメント、ハズバンドリートレーニング、他園に輸送する際の輸送技術など飼育係に必要なスキルを学習する。
- ②動物園のマネジメントにおいて重要な動物園での危機管理について学習する。
- ③動物園における飼育動物の個体群管理について学習する。

授業計画

- 1回 比較解剖学（運動器系、外皮）
- 2回 比較解剖学（消化器系、循環器系、呼吸器系）
- 3回 比較解剖学（泌尿器系、生殖器系）
- 4回 比較解剖学（感覚器系）
- 5回 比較解剖学（クジャクの羽根はなぜ綺麗？～性淘汰のはなし）
- 6回 比較解剖学（鳥類の骨格、羽毛、循環器）
- 7回 比較解剖学（鳥類の呼吸器、消化器）
- 8回 比較解剖学（鳥類の泌尿生殖器系、繁殖）
- 9回 動物園の展示手法（展示手法の歴史、目的別展示）

- 10 回 動物園の展示手法（課題をもとにした展示、非生体試料の展示）
- 11 回 動物園の調査研究
- 12 回 飼育動物の繁殖生理・内分泌学（繁殖生理学・内分泌学の基礎）
- 13 回 飼育動物の繁殖生理・内分泌学（動物園における希少種の繁殖）
- 14 回 DVD 世界の動物園（ヨーロッパ編）
- 15 回 前期まとめ
- 16 回 動物園の動物飼育（草食動物、肉食動物）
- 17 回 動物園の動物飼育 1（サル類、雑食獣）
- 18 回 動物園の動物飼育 2（鳥類、爬虫類、両生類）
- 19 回 動物園の医学 1（動物の健康管理）
- 20 回 動物園の医学 2（動物の感染症予防対策）
- 21 回 動物園の危機管理 1（脱走、災害）
- 22 回 動物園の危機管理 2（人獣共通感染症対策）
- 23 回 動物の学習とトレーニング 1（動物の学習、動物園でのトレーニング）
- 24 回 動物の学習とトレーニング 2（クリックートレーニングをやってみよう）
- 25 回 飼育動物の個体群管理 1
- 26 回 飼育動物の個体群管理 2
- 27 回 DVD 動物福祉
- 28 回 DVD 世界の動物園（アメリカ編）
- 29 回 DVD 世界の動物園（アジア編）
- 30 回 後期まとめ

授業の方法

パワーポイント、テキストを使用した講義及び DVD の鑑賞

教材

授業前に配布する資料、テキスト（改訂版 新・飼育ハンドブック）

評価の方法

期末試験 60%、レポート 20%、授業態度 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

身近な動物園や水族館へ行き、授業で学んだ内容を現場で確認する。授業の疑問点、興味を持った点について自分で調べてノートに記録しておく。

実務経験と授業科目の関係

動物園獣医師及び飼育展示係長としての現場での経験、副園長としての組織マネジメント経験及び日本動物園水族館協会でのゾウ専門委員、教育普及部門委員としての経験を踏まえ、動物飼育に役立つ知識と技術を講義する。

生体管理概論・実習Ⅱ

(授業概要)

前期後期を通じて動物を扱う仕事（動物園飼育員、ペットショップ、動物保護スタッフ）や愛玩動物使用管理士など資格で必要な動物飼育方法・生体管理方法を身につける。具体的には、飼育棟内小動物・鳥・家畜動物、両生爬虫類エリアの両生爬虫類のハンドリング方法や健康チェック方法、動物のケージの掃除等を実際に行いながら学び、習得する。

前期では基本的な飼育などの実技学習を通じた授業で時間内での業務を意識した生体管理を行うことを目標にする。後期では実際の職場などでも用いられる実践的な内容の学習を行うことを目標にする。

科	生命科学科	教員	金田、和泉
コース	動物園ゼミ	教員の実務経験	○
対初年次	2年	年間単位数	2単位

目標

前期

- ・小動物、鳥、家畜動物の健康管理を行いながら、ケージの掃除や飼育棟内の清掃を100分以内に終わらせ、効率の良い作業方法を習得する。
- ・両生爬虫類エリアの使い方や動物の特徴、飼育管理方法について学び、1つ1つの作業の必要性を理解した上で100分以内に作業を終わらせる。
- ・就職や資格獲得に役立つ基礎的なスキル・知識の習得をすることができる

後期

- ・小動物、鳥、家畜動物の保定方法や健康管理方法に加えて、爬虫類のハンドリング、健康管理方法もマスターし、爬虫類ならではのガラスケージなどの掃除方法も習得する。
- ・グループ内でその日の目標と反省を行いながら作業をすすめ、自分の頭で考えながら飼育管理を行う。
- ・就職や資格獲得、卒業研究に役立つ実践的なスキル・知識の習得をすることができる

授業計画

[前期]

- 第1週 小動物飼育 ハムスターの飼育実践（飼育作業）
両生爬虫類飼育 ヒョウモンカゲモドキ（レオパードゲッコー）管理
- 第2週 小動物飼育 ハムスターの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）

	両生爬虫類飼育 ヒョウモントカゲモドキ（レオパードゲッコー）飼育実践
第3週	小動物飼育 ウサギの飼育実践（飼育作業） 両生爬虫類飼育 ニシアフリカトカゲモドキ管理
第4週	小動物飼育 ウサギの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理） 両生爬虫類飼育 ニシアフリカトカゲモドキ飼育実践
第5週	小動物飼育 モルモットの飼育実践（飼育作業） 両生爬虫類飼育 アオジタトカゲ管理
第6週	小動物飼育 モルモットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理） 両生爬虫類飼育 アオジタトカゲ飼育実践
第7週	小動物飼育 フェレットの飼育実践（飼育作業） 両生爬虫類飼育 メキシコサラマンダー（ワーバールーパー）管理
第8週	小動物飼育 フェレットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理） 両生爬虫類飼育 メキシコサラマンダー（ワーバールーパー）飼育実践
第9週	小動物飼育 チンチラの飼育実践（飼育作業） 両生爬虫類飼育 フトアゴヒゲトカゲ管理
第10週	小動物飼育 チンチラの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理） 両生爬虫類飼育 フトアゴヒゲトカゲ飼育実践
第11週	小動物飼育 デグーの飼育実践（飼育作業） 両生爬虫類飼育 アカハライモリ管理
第12週	小動物飼育 デグーの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理） 両生爬虫類飼育 アカハライモリ飼育実践
第13週	小動物飼育 ハリネズミの飼育実践（飼育作業） 両生爬虫類飼育 インドホシガメ管理
第14週	小動物飼育 ハリネズミの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理） 両生爬虫類飼育 インドホシガメ飼育実践
第15週	小動物飼育 フクロモモンガの飼育実践（飼育作業） 両生爬虫類飼育 カブトニオイガメ管理
第16週	前期試験
第17週	学校飼育小動物の品種について/課題
第18週	試験返却・試験の振り返り
[後期]	
第19週	小動物飼育 フクロモモンガの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理） 両生爬虫類飼育 カブトニオイガメ飼育実践
第20週	小動物飼育 ファンシーラットの飼育実践（飼育作業） 両生爬虫類飼育 コーンスネーク管理
第21週	小動物飼育 ファンシーラットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理） 両生爬虫類飼育 コーンスネーク飼育実践
第22週	小動物飼育 ミーアキャットの飼育実践（飼育作業） 両生爬虫類飼育 ボールバイソン管理
第23週	小動物飼育 ミーアキャットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理） 両生爬虫類飼育 ボールバイソン飼育実践
第24週	小動物飼育 鳥類[インコ]の飼育実践（飼育作業） 両生爬虫類飼育 ニホンアマガエル管理

第 25 週	小動物飼育 鳥類[インコ]の飼育実践（健康管理/用品・衛生管理） 両生爬虫類飼育 ニホンアマガエル飼育実践
第 26 週	小動物飼育 鳥類[家禽]の飼育実践（飼育作業） 両生爬虫類飼育 アズマヒキガエル管理
第 27 週	小動物飼育 鳥類[家禽]の飼育実践（健康管理/用品・衛生管理） 両生爬虫類飼育 アズマヒキガエル飼育実践
第 28 週	小動物飼育 猫の飼育実践（飼育作業） 両生爬虫類飼育 クレストッドゲッコー管理
第 29 週	小動物飼育 猫の飼育実践（健康管理/用品・衛生管理） 両生爬虫類飼育 クレストッドゲッコー飼育実践
第 30 週	小動物飼育 トカラヤギの飼育実践（飼育作業） 両生爬虫類飼育 サバンナモニター管理
第 31 週	後期試験
第 32 週	学校飼育両生爬虫類の品種について/課題
第 33 週	試験返却・試験の振り返り
第 34 週	小動物飼育 トカラヤギの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理） 両生爬虫類飼育 サバンナモニター飼育実践
第 35 週	1 年の振り返り

授業の方法

講義・実習

教材

カラーアトラス エキゾチックアニマル 哺乳類編・鳥類編 その他配布資料

評価の方法

試験 80%、平常点 20%（出席率や授業態度、ノート提出）で総合的に評価する。

授業外での学習方法

小動物のハンドリングや健康チェック

エキゾチックアニマルⅡ、両生爬虫類Ⅱ、飼育用品概論Ⅱのノートの見直し

実務経験と授業科目の関係

動物園での飼育員経験を持つ教員が担当することで、実際の飼育現場で求められる生体管理やハンドリング方法、健康チェック、飼育環境の整備などについて、実務に基づいた具体的な指導を受けることができる。動物園という多様な動物を扱う現場で培われた知識と経験により、前期の基礎的な飼育技術から後期の応用的・実践的な管理方法まで、現場に即した視点で学ぶことができる。これにより、就職後に必要と

なる実践力と判断力の向上につながる。

動物園ゼミ演習

授業の目的・概要

本授業は、動物園業界に関する理解を深めながら、イベント企画・運営や調べ学習、成果発表、就職準備を実習形式で総合的にを行うことを目的とする。動物園の役割や社会的機能、関連職種について学び、グループワークを通して企画立案・情報収集・広報活動・発表までの一連のプロセスを経験することで、実践的な企画力と協働力を養う。また、業界研究や自己分析、面接対策等の就職活動準備も並行して行い、動物園業界で活躍できる人材として必要な総合的実践力の育成を図る。

科	生命科学科	教員	金田
コース	動物園ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位数	4 単位

目標

- ・動物園業界の役割や職種について理解し、説明できる
- ・グループで協力しながらイベント企画・運営を行うことができる
- ・調査活動や成果物作成を通して情報収集・整理・発表の力を身に付ける
- ・業界研究や就職活動準備を行い、自身の進路選択に活かすことができる

授業計画

第1週 オリエンテーション（授業概要・動物園業界の理解）

第2週 動物園の役割と機能

第3週 動物園業界の職種理解

第4週 イベント運営の基礎

第5週 調べ学習テーマ設定

第6週 調べ学習計画作成

第7週 グループ分け・役割分担

第8週 情報収集①

第9週 情報収集②

第10週 中間整理①

第11週 中間整理②・発表準備

第12週 中間発表①

第13週 中間発表②（フィードバック）

第14週 改善計画立案

第15週 イベント企画①

第16週 イベント企画②（詳細設計）

第 17 週	イベント準備①
第 18 週	イベント準備②
第 19 週	広報活動①（ポスター・チラシ）
第 20 週	広報活動②（SNS・告知）
第 21 週	リハーサル①
第 22 週	リハーサル②（改善）
第 23 週	模擬イベント実施①
第 24 週	模擬イベント実施②
第 25 週	振り返りと改善
第 26 週	追加調査・発展学習
第 27 週	成果物作成①
第 28 週	成果物作成②
第 29 週	成果発表準備①
第 30 週	成果発表準備②
第 31 週	就職準備①（業界研究）
第 32 週	就職準備②（履歴書・自己 PR）
第 33 週	就職準備③（面接練習）
第 34 週	最終成果発表会
第 35 週	総括・評価・振り返り

授業の方法

実践的な学びを中心に進めていく

教材

特にないが必要に応じて資料を配布する。

評価の方法

授業への参画 40%、成果発表 20%、レポート提出 40%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、動物園の役割やイベント事例、関連職種について資料や Web 情報を調べ、授業テーマに関する基礎知識を整理する。事後学習として、授業で行った企画内容や調査結果、発表内容を振り返り、改善点や学びをまとめることで理解を深め、実践力の定着を図る。

実務経験と授業科目の関係

動物の飼育管理に加え、来場者対応や教育的プログラムの運営など、現場での実践的な業務に精通している。

その経験は本授業のイベント企画・運営や広報活動。来園者を意識したプログラム設計に直結しており、単なる理論ではなく実務に基づいた指導が可能である。また、動物福祉と観光・教育の両立といった観点から、動物園業界で求められる総合的な視点を養うことにつながる。

動物園ゼミ演習

授業の目的・概要

本授業は、動物園ゼミ演習で培った基礎的な企画力・調査力・発表力を発展させ、動物園の実務に即した高度な企画立案および実践的運営能力を養うことを目的とする。動物園の社会的役割や経営的視点、来園者体験の設計、教育プログラムの構築などについて理解を深め、外部連携や安全管理を含めた実践的なプロジェクト運営を行う。また、企画の実施から評価・改善までの一連のプロセスを通して、課題解決能力と分析力を高め、現場で通用する総合的な実践力と専門性の向上を図る。

科	生命科学科	教員	金田
コース	動物園ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位数	4 単位

目標

- ・動物園業界の役割や職種について理解し、説明できる
- ・グループで協力しながらイベント企画・運営を行うことができる
- ・調査活動や成果物作成を通して情報収集・整理・発表の力を身に付ける
- ・業界研究や就職活動準備を行い、自身の進路選択に活かすことができる

授業計画

- 第1週 オリエンテーション（授業目的・到達目標の共有）
- 第2週 動物園の社会的役割の高度理解
- 第3週 動物園経営と運営の基礎
- 第4週 来園者体験設計（エクスペリエンスデザイン）
- 第5週 教育プログラム設計の基礎
- 第6週 企画立案手法の高度化
- 第7週 課題設定とリサーチ設計
- 第8週 グループプロジェクト編成
- 第9週 フィールドリサーチ①（事例調査）
- 第10週 フィールドリサーチ②（分析）
- 第11週 企画案中間作成①
- 第12週 企画案中間作成②
- 第13週 中間プレゼン①
- 第14週 中間プレゼン②（改善指示）
- 第15週 改善企画の再設計
- 第16週 実施計画書作成

第 17 週	外部連携企画の検討（自治体・施設想定）
第 18 週	動物園イベントの安全管理
第 19 週	広報戦略設計
第 20 週	制作物作成①（教材・展示）
第 21 週	制作物作成②（改善）
第 22 週	試験運用（ミニイベント）
第 23 週	試験運用の評価
第 24 週	本企画準備①
第 25 週	本企画準備②
第 26 週	本企画準備③
第 27 週	本企画実施①
第 28 週	本企画実施②
第 29 週	データ収集・来園者評価分析
第 30 週	成果分析と改善提案
第 31 週	成果物作成①（報告書）
第 32 週	成果物作成②（発表資料）
第 33 週	最終発表会
第 34 週	外部評価・講評
第 35 週	総括・ポートフォリオ整理

授業の方法

実践的な学びを中心に進めていく

教材

特にないが必要に応じて資料を配布する。

評価の方法

授業への参画 40%、成果発表 20%、レポート提出 40%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、動物園の役割やイベント事例、関連職種について資料や Web 情報を調べ、授業テーマに関する基礎知識を整理する。事後学習として、授業で行った企画内容や調査結果、発表内容を振り返り、改善点や学びをまとめることで理解を深め、実践力の定着を図る。

実務経験と授業科目の関係

動物の飼育管理に加え、来場者対応や教育的プログラムの運営など、現場での実践的な業務に精通している。その経験は本授業のイベント企画・運営や広報活動、来園者を意識したプログラム設計に直結しており、単なる理論ではなく実務に基づいた指導が可能である。また、動物福祉と観光・教育の両立といった観点から、動物園業界で求められる総合的な視点を養うことにつながる。

エキゾチックアニマルⅡ

(授業概要)

エキゾチックアニマルの生態・習性・飼育管理に関する基礎知識を習得し、各動物種に応じた適切な取り扱いができる能力を身につけることを目的とする。これにより、動物関連業界への就職に必要な実践的知識の基盤を養う。

科	生命科学科	教員	伊勢 朱里
コース	動物園ゼミ	教員の実務経験	ペットショップスタッフ2年
対象年次	2年	年間単位	1単位

目標

前期

- ・エキゾチックアニマル（チンチラ、デグー、ハリネズミ）について、分類・歴史・生態・特徴を理解することができる。
- ・適切な飼育管理、繁殖および代表的な疾病に関する基礎知識を習得することができる。
- ・各動物種の特性に応じた取り扱いができる基礎的な判断力を身につける。

後期

- ・エキゾチックアニマル（フクロモモンガ、シマリス、プレーリードッグ、リチャードソンジリス、鳥類）についての理解を深め、より専門性の高い飼育管理および健康管理に関する知識を習得することができる。
- ・複数種に対応できる応用的な知識と判断力を養い、動物関連業界において実務に活かせる対応力を身につけることができる。

授業計画

- 1回 チンチラ①—分類、歴史について
- 2回 チンチラ②—体の特徴について
- 3回 チンチラ③—生理的な特徴について
- 4回 チンチラ④—飼育方法について
- 5回 チンチラ⑤—繁殖、病気について
- 6回 デグー①—分類、歴史について
- 7回 デグー②—体の特徴について
- 8回 デグー③—生理的な特徴について

- 9回 デグー④—飼育方法について
- 10回 デグー⑤—繁殖、病気について
- 11回 ハリネズミ①—分類、歴史について
- 12回 ハリネズミ②—体の特徴についてについて
- 13回 ハリネズミ③—生理的な特徴について
- 14回 ハリネズミ④—飼育方法について
- 15回 ハリネズミ⑤—繁殖、病気について
- 16回 フクロモモンガ①—分類、歴史について
- 17回 フクロモモンガ②—体の特徴について
- 18回 フクロモモンガ③—生理的な特徴について
- 19回 フクロモモンガ④—飼育方法について
- 20回 フクロモモンガ⑤—繁殖、病気について
- 21回 シマリス①—分類、歴史について
- 22回 シマリス②—体・生理的な特徴について
- 23回 シマリス③—飼育方法について
- 24回 シマリス④—繁殖、病気について
- 25回 ブレーリードッグ、リチャードソン・ジリス①—分類、歴史、特徴について
- 26回 ブレーリードッグ、リチャードソン・ジリス②—飼育、繁殖、病気について
- 27回 鳥類①—種類について
- 28回 鳥類②—特徴について
- 29回 鳥類③—飼育について
- 30回 鳥類④—病気について

授業の方法

講義

教材

『カラーアトラスエキゾチックアニマル 哺乳類編 第3版—種類・生態・飼育・疾病—』

著：霍野 晋吉、横須賀 誠 出版社：緑書房

『カラーアトラスエキゾチックアニマル 鳥類編 第2版—種類・生態・飼育・疾病—』

著：霍野 晋吉 出版社：緑書房

評価の方法

試験 80%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

次の単元のキーワードになると思うページ数を指定し、予め調べてノートにまとめておくことを事前学習とする。また、事後学習として、授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目との関係

ペットショップの小動物部門における実務経験を有しており、現場での飼育管理や販売、顧客対応の経験に基づき、エキゾチックアニマルに関する実践的な知識を教授する。これにより、学生の就職後を見据えた実務対応力の育成を図る。

栄養学Ⅱ

(授業概要)

犬猫に必要な五大栄養素、エネルギー要求量、ライフステージに応じた栄養管理について体系的に理解することを目的とする。加えて、ペットフードに関する知識（種類・特性・選択方法）を習得し、現場での活用を見据えた実践的知識の定着を図る。

さらに、これらの基礎知識を基に、犬猫以外の動物にも応用可能な栄養管理の考え方を理解し、動物関連業界において幅広く対応できる能力の育成を目指す。

科	生命科学科	教員	伊勢 朱里
コース	動物園ゼミ	教員の実務経験	ペットショップスタッフ2年
対象年次	2年	年間単位数	1単位

目標

前期

・犬猫に必要な五大栄養素の働きやエネルギー要求量について理解し、動物の健康維持に必要な栄養学の基礎知識を習得することができる。

・栄養バランスの考え方を身につけ、各動物の状態に応じた適切な栄養管理の基礎的判断力を身に付けることができる。

後期

・ペットフードの歴史や種類、ライフステージに応じた選択方法について理解を深めるとともに、食物アレルギーや誤食防止などに関する知識を習得することができる。

・個体の状態に応じた適切なフード選択および指導ができる応用的な知識と判断力を養い、動物関連業界において実務に活かせる対応力を身に付ける。

授業計画

- 1回 栄養学とは/栄養を摂取するとは
- 2回 五大栄養素（たんぱく質）
- 3回 五大栄養素（たんぱく質の消化）
- 4回 五大栄養素（炭水化物）
- 5回 五大栄養素（炭水化物の消化）
- 6回 五大栄養素（脂質）
- 7回 五大栄養素（脂質の消化）
- 8回 五大栄養素（ビタミン）
- 9回 五大栄養素（ビタミンの消化）

- 10 回 五大栄養素（ミネラル）
- 11 回 五大栄養素（ミネラルの消化）
- 12 回 ボディコンディショニングスコア（BCS）
- 13 回 エネルギー要求量（種類）
- 14 回 エネルギー要求量（計算方法）
- 15 回 エネルギー要求量（計算してみる）
- 16 回 フードの歴史
- 17 回 4D/フードの種類（ドライ・セミモイスト・ウェット）
- 18 回 フードの種類（総合栄養食・栄養補助食・特別療法食）
- 19 回 パッケージの見方
- 20 回 添加物・酸化防止剤・保存料
- 21 回 ライフステージ（哺乳期・離乳期・成長期）
- 22 回 ライフステージ（維持期・高齢期）
- 23 回 ライフステージ（妊娠授乳期・治療期）
- 24 回 食物アレルギー
- 25 回 犬猫が食べてはいけないもの（食物）
- 26 回 犬猫が食べてはいけないもの（植物）
- 27 回 PB と NB の違い
- 28 回 手作り食
- 29 回 サプリメント（使い方）
- 30 回 サプリメント（形状と特徴）

授業の方法

講義

教材

授業で使用する教材については、必要に応じて授業中に適宜配布していく。

評価の方法

試験 80%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

次の単元のキーワードになると思うワードを指定し、予め調べてノートにまとめておくことを事前学習とする。また、事後学習として、授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目の関係

総合ペットショップでの実務経験を有しており、その経験を活かして犬および猫の栄養管理やペットフー

ドに関する実践的な知識を指導する。

海洋哺乳類学

(授業概要)

陸棲哺乳類と海棲哺乳類の違いを理解し、海棲哺乳類の分類・特徴について学ぶとともに、海棲哺乳類の飼育方法を知り、実際の飼育現場で必要な知識を身に着ける。また哺乳類ではないが、日本で多く飼育されているペンギンについても、特徴や飼育に関する知識を身に付ける。

野生での海棲哺乳類の歴史や現状を学習し、人とのかかわりや保全について考えることができる。

科	生命科学科	教員	松田 知奈実
コース	動物園ゼミ・野生生物ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位時間	1 単位

目標

前期

陸棲哺乳類と海棲哺乳類の違いを説明することができる。

鯨類と海牛類の分類や特徴を説明することができる。

鯨類と海牛類の飼育方法について理解することができる。

野生の鯨類と海牛類について、現状や調査方法を説明することができる。

後期

鯨脚類・ペンギン類の分類や特徴を説明することができる。

ラッコ・ホッキョクグマの特徴や生活史を説明することができる。

鯨脚類・ラッコ・ホッキョクグマ・ペンギン類の飼育方法について理解することができる。

野生の鯨脚類・ラッコ・ホッキョクグマ・ペンギン類について、現状や調査方法を説明することができる。

授業計画

前期

第1回 自己紹介、授業の進め方

第2回 海洋哺乳類とは①

第3回 海洋哺乳類とは②

第4回 鯨類① 進化・分類・体の特徴

第5回 鯨類② ハクジラ亜目の特徴

第6回 鯨類③ ハクジラ亜目の生態

- 第7回 鯨類④ ヒゲクジラ亜目の特徴
- 第8回 鯨類⑤ ヒゲクジラ亜目の生態
- 第9回 鯨類⑥ 鯨類の社会
- 第10回 鯨類⑦ 鯨類の飼育
- 第11回 海牛類① 進化・分類・体の特徴
- 第12回 海牛類② ジュゴン
- 第13回 海牛類③ マナティー
- 第14回 海牛類④ 海牛類の飼育・保護活動
- 第15回 鰐脚類① 進化・分類・体の特徴
- 後期**
- 第16回 鰐脚類② アシカ科の特徴
- 第17回 鰐脚類③ アシカの飼育
- 第18回 鰐脚類④ アザラシ科の特徴
- 第19回 鰐脚類⑤ アザラシの飼育
- 第20回 鰐脚類⑥ セイウチ科の特徴
- 第21回 鰐脚類⑦ セイウチの飼育
- 第22回 ラッコ① 進化・体の特徴
- 第23回 ラッコ② 生活史・生態系への影響
- 第24回 ラッコ③ ラッコの飼育
- 第25回 ホッキョクグマ① 進化・体の特徴
- 第26回 ホッキョクグマ② 生活史・社会
- 第27回 ホッキョクグマ③ ホッキョクグマの飼育・絶滅問題
- 第28回 ペンギン類① 進化・分類・体の特徴
- 第29回 ペンギン類② ペンギンの飼育
- 第30回 海棲哺乳類の飼育員

授業の方法

講義

教材

配布プリント

評価の方法

定期試験 80%、平常点 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業内で触れた事柄について、自分なりに調べて理解を深めておく。

実務経験と授業科目の関係

元水族館飼育員(イルカ・アシカ・アザラシ・ペンギンの飼育経験あり)

昆虫学Ⅱ

授業の目的・概要

昆虫類は地球の幅広い環境に適応しているが、その優れた能力から我々が学ぶことは非常に多く、人類が豊かな生活をしていく上で「昆虫学」という科学分野は必要不可欠である。

この授業で昆虫の多様性や、昆虫を取り扱う仕事について学習し、標本や展示等、昆虫館等で働く上で必要となる知識や技術を習得する。

さらに、昆虫観察会でのテクニックや、フィールドにおける調査方法等、昆虫に関わる業界で必要と思われる広い知識や技術の習得を目指す。

科目名	昆虫学Ⅱ	教員	吉原
コース	動物園ゼミ	教員の実務経験	-
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

昆虫の多様性について説明できる。

昆虫を扱う仕事・施設について説明できる。

標本作製、飼育について実践もしくは説明できる。

後期

1 種類以上の昆虫を詳しく解説することが出来る。

昆虫の調査方法やビジネスについて理解し、実践もしくは考案出来る。

重要な種、特定外来生物について説明が出来る。

授業計画

- 1 回 アイスブレイク、自己紹介
- 2 回 昆虫の多様性①
- 3 回 昆虫の多様性②
- 4 回 昆虫を扱う仕事について
- 5 回 クワガタムシ・カブトムシについて①
- 6 回 クワガタムシ・カブトムシについて②
- 7 回 昆虫の飼育①
- 8 回 昆虫の飼育②
- 9 回 標本について①
- 10 回 標本について②

- 11 回 展示について①
- 12 回 展示について②
- 13 回 昆虫を扱う施設紹介
- 14 回 各回で紹介出来なかった資料の紹介、試験対策
- 15 回 試験対策
- 16 回 昆虫の調査方法①
- 17 回 昆虫の調査方法②
- 18 回 昆虫の調査方法③
- 19 回 観察会での昆虫紹介テクニック
- 20 回 昆虫食について
- 21 回 昆虫グッズについて
- 22 回 生物模倣と昆虫
- 23 回 昆虫関連の学会・同好会
- 24 回 重要種について①
- 25 回 重要種について②
- 26 回 特定外来生物について
- 27 回 日本の昆虫の衰亡要因①
- 28 回 日本の昆虫の衰亡要因①～②
- 29 回 日本の昆虫の衰亡要因②
- 30 回 試験対策

授業の方法

講義

教材

スライドを使用する。必要に応じて参考資料を配布する。

評価の方法

期末試験 80%、授業態度・出席率 20%

授業外での学習方法

事前学習として、次回講義に関する情報を調べておく。普段から昆虫を見る・触れる等の経験をしておく。

2026 年度

事後学習として、自分でメモを取る・配布資料を読み直す等、講義内容を振り返り、気になる昆虫に関して詳しく説明が出来るようになる。

実務経験と授業科目の関係

-

飼育用品概論Ⅱ

(授業概要)

犬、猫、爬虫類、昆虫など各動物種の飼育に必要な用品について理解することを目的とする。各用品の種類や特徴、使用目的について学び、動物の特性に応じた適切な選択および使用方法を習得する。また、現場での活用を見据え、飼育環境の整備や顧客への提案に必要な実践的知識を身につけ、動物関連業界への就職に対応できる基礎力の養成を図る。

科	生命科学科	教員	伊勢 朱里
コース	動物園ゼミ	教員の実務経験	ペットショップスタッフ2年
対象年次	2年	年間単位数	1単位

目標

前期

- ・両生爬虫類の飼育に必要な用品の種類や特徴、使用目的について理解することができる。
- ・各動物の生態や特性に応じた適切な用品の選択および使用方法を習得し、飼育環境の整備に必要な基礎知識を身につける。

後期

- ・昆虫および犬、猫の飼育に必要な用品について理解を深め、各動物種に適した用品の選択および活用方法を習得することができる。
- ・動物の健康や福祉に配慮した飼育環境の構築ができる知識を身につける。

授業計画

- 1回 アイスブレイク/飼育用品概論Ⅰの復習
- 2回 昼行性の爬虫類
- 3回 夜行性爬虫類
- 4回 爬虫類用品：ケージ
- 5回 両生類用品：ケージ
- 6回 両生爬虫類用品：シェルター
- 7回 両生爬虫類用品：床材
- 8回 両生爬虫類用品：保温器具
- 9回 両生爬虫類用品：保冷器具
- 10回 両生爬虫類用品：ライト（紫外線）
- 11回 両生爬虫類用品：ライト（バスキング）
- 12回 両生爬虫類用品：メンテナンスについて（爪切り・温浴）

- 13 回 両生爬虫類用品：給水器、餌皿
- 14 回 両生爬虫類用品：草食動物のフード
- 15 回 両生爬虫類用品：肉食・雑食動物フード
- 16 回 両生爬虫類用品：サプリメント
- 17 回 爬虫類の販売形態について
- 18 回 系統とモルフについて
- 19 回 ペット保険について
- 20 回 爬虫類の病気と診察
- 21 回 昆虫用品：カブトムシ・クワガタムシの生体について
- 22 回 昆虫用品：カブトムシ・クワガタムシの飼育
- 23 回 昆虫用品：カブトムシ・クワガタの飼育に必要な用品
- 24 回 昆虫用品：スズムシ・ヤドカリの生体について
- 25 回 昆虫用品：スズムシ・ヤドカリの飼育方法・飼育に必要な用品
- 26 回 犬猫用品：ケージ、キャットタワー
- 27 回 犬猫用品：サークル、キャリー
- 28 回 犬猫用品：食器、給水器
- 29 回 犬猫用品：おもちゃ、首輪、リード
- 30 回 犬猫用品：お手入れグッズ(歯ブラシ、爪切り)

授業の方法

講義

教材

授業で使用する教材については、必要に応じて授業中に適宜配布していく。

評価の方法

試験 80%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業でまとめたノートを参考に、ペットショップや動物園等において実際の用品を観察し、各動物種に応じた用品の選択や配置について考察する。さらに、関連する資料や文献、インターネットを活用し、飼育環境に関する知識を主体的に補充する。

実務経験と授業科目の関係

総合ペットショップにおける実務経験を有しており、飼育用品の販売および顧客対応の経験をもとに、各動物種に適した用品の選択や使用方法、適切な商品提案について実務に即した指導を行う。これにより、学生の就職後を見据えた実践的な対応力の育成を図る。

動物機能形態学Ⅱ

授業の目的・概要

本授業は、動物の体の仕組みと健康管理、疾病に関する基礎知識を体系的に理解し、動物関連分野で必要となる専門的判断力を養うことを目的とする。犬や猫、有蹄類、エキゾチック動物、動物園動物など多様な動物種の病気や特徴を学び、それぞれの生理的特性と疾患の関係を理解する。また、人獣共通感染症や繁殖、人工哺育、孵化などの内容を通して、飼育管理や繁殖技術の基礎を身につける。さらに、動物園や現場での実例を踏まえながら、適切な健康管理と対応方法を考察できる力を育成し、動物福祉と安全管理の観点から実践的な理解を深めることを目指す。

科	生命科学科	教員	笹野 聡美
コース	ZOO	教員の実務経歴	獣医師歴 36 年
対象年次	2 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・1 年次の復習を行い、再度学習した内容を理解することができる。
- ・哺乳類と鳥類の病気、人獣共通感染症について理解し、飼育に生かせるようになる。
- ・動物の栄養と飼料、薬、繁殖や動物衛生について理解し、飼育に生かせるようになる。

授業計画

- 1 回 機能形態学Ⅰの復習 1
- 2 回 機能形態学Ⅰの復習 2
- 3 回 動物の病気 1 犬の病気
- 4 回 動物の病気 2 犬の病気
- 5 回 動物の病気 3 猫の病気
- 6 回 動物の病気 4 猫の病気
- 7 回 動物の病気 5 有蹄類の病気
- 8 回 動物の病気 6 有蹄類の病気
- 9 回 動物の病気 7 有蹄類の病気
- 10 回 エキゾチック動物の病気、ウサギ
- 11 回 エキゾチック動物の病気、ウサギ
- 12 回 エキゾチック動物の病気、モルモット
- 13 回 エキゾチック動物の病気、モルモット
- 14 回 エキゾチック動物の病気、ハリネズミ
- 15 回 エキゾチック動物の病気、フクロモモンガ
- 16 回 動物園動物の病気、キリンなど草食動物
- 17 回 動物園動物の病気、トラなど肉食動物
- 18 回 動物園動物の病気、海棲哺乳類

- 19回 動物園動物の病気、鳥類
- 20回 動物園動物の病気、霊長類
- 21回 動物園における人獣共通感染症の実例
- 22回 鳥類の病気
- 23回 鳥類の病気
- 24回 哺乳類の繁殖
- 25回 哺乳類の繁殖
- 26回 人工哺育
- 27回 鳥類の繁殖
- 28回 鳥類の繁殖
- 29回 鳥類の人工孵化と育雛
- 30回 1年間の総まとめ

授業の方法

講義（パワーポイント使用してのオンデマンド授業および対面授業）

教材

特にないが、対面授業の時には随時プリントを配布する。

評価の方法

試験による評価 90～100%を基本とし、授業への参加態度も加味しつつ総合的に評価する。

授業外での学習方法

飼育施設で研修する際、与えられた作業を漫然とこなすのではなく、例えば飼料の種類や内容、飼育方法について自分でも考え、疑問があれば自分で調べたり飼育員さんに質問したりする。

実務経験と授業科目の関係

○経歴：秋吉台自然動物公園で勤務獣医師11年。海外野生動物保護センターの勤務獣医師2年。現在は往診専門動物病院を開業し、ふれあい動物園などの展示動物園動物、愛玩動物、野生動物などを診療および対応している。○役員：野生動物医学会会員、野生動物保全繁殖研究会幹事を務めている。岡山県ツキノワグマ対策業務委託（今年度から予定）。○出版：「野生動物医学（翻訳）」「インコとオウムの行動学（監訳）」「鳥類の人工孵化と育雛（編集・監訳）」。

○現在も飼育施設において診療業務を行っていることから、飼育員に必要な知識をしっかりと伝えることができると考えている。また、野生動物にかかわる業務にも携わっているため、将来野生動物関連の仕事に就きたい学生にも参考となる話題を提供することができる。

動物行動生態学

授業の目的・概要

動物飼育に際して留意すべき点について適応という観点から考えられるようになる。これは運を天に任せる。思い付きによるものではなく、能動的で根拠のあるものでなければならない。動物の種としてのユニークさ、種を越えた共通点について優劣で比べないようになる。

科	生命科学科	教員	山本 聡
コース	動物園ゼミ	教員の実務経験	有り
対象年次	2年生	年間単位時間	1単位

目標

前期 行動の最適化をトレードオフの観点から説明できる。包括適応度が自己の適応度を高められない特に何故重要か理由を指摘出来る。互惠的利他行動の具体的な例を挙げられる。進化や適応といった観点から未来の動物飼育について自分の考えを持つ。

後期 ハンディキャップ理論を具体的な例を挙げながら説明できる。父性について自分の考えを述べられる。ゲーム理論の問題点を指摘できる。平均値が適切な代表値ではない場合を挙げられる。箱髭図が画ける。度数分布表を正しく読める。因果関係が判定できる。

授業計画

[前期授業]

- 1回 対面：生命とは、繁殖と性成熟、性成熟と肉体の成熟。
- 2回 オンデ：進化の方向性、進化は変化、環境の選択、人工的環境の中での進化。
- 3回 対面：側系統、ヒト中心主義、進化の袋小路：側系統と進化の注意点。
- 4回 オンデ：行動の最適化(個体レベル)マルハナバチとムース、表やグラフを読む。
- 5回 対面：最適化とトレードオフ。集団と群れ、社会性の弱い集団と社会性の強い集団。
- 6回 オンデ：集団レベルでの最適化（クロガンと雌ライオン）。

- 7 回 対面：働きバチはなぜ繁殖しないのか、半倍数性生殖と真社会性。
- 8 回 オンデ：血縁に対する利他行動、ハミルトンの法則、包括的適応度、血縁認識。
- 9 回 対面：非血縁に対する利他行動（現代行動生態学の限界）。
- 10 回 オンデ：親から見た適応度、疑似ヘルパー。
- 11 回 対面：互惠的利他行動 ブラックハムレット
- 12 回 オンデ：互惠的利他行動 チスイコウモリ、インバラ
- 13 回 対面：副次的利他行動（みせかけの協力）、フローターとは。
- 14 回 オンデ：様々な繁殖戦略、Feign Behavior、性転換。
- 15 回 対面：前期のまとめ
- 16 回 対面：性選択と進化、突然変異、中立進化、平行進化。
- 17 回 オンデ：コールとソング。
- 18 回 対面：鳴禽類の雄の歌。
- 19 回 オンデ：ハンディキャップ理論とトムソンガゼル
- 20 回 フィッシャーとランナウェイ理論。
- 21 回 動物の社会性(イルカって社会的？ヒヒの複雑な社会)。
- 22 回 ESS と囚人のジレンマ・モデル。
- 23 回 頻度依存と性格、性格はどこからきたか？
- 24 回 データの性質、正規分布、尺度。
- 25 回 3 種類の代表値、平均値。
- 26 回 中央値、箱髷図とその見方・書き方、最頻値。
- 27 回 度数分布表と階級。
- 28 回 相関関係と因果関係、相関を求める。
- 29 回 偏差と母集団
- 30 回 対面：後期のまとめ

授業の方法

講義中心だが学生に質問する時間、学生同士ディスカッションする時間を随時設ける。

教材

必要に応じて学生に紹介。

評価の方法

試験 80%、授業態度等の参加意欲 20%で総合的に判断する。

授業外での学習方法

授業のコピーではなく、自分の考え、疑問に対する答えをまとめたオリジナルのノートを作る

実務経験と授業科目の関係

ハワイ大学ケフロ湾海洋哺乳類研究所、生物学研究所で海洋哺乳類のトレーニング・ケアとそれらに必要な学問を学ぶ（比較認知学、行動生態学、実験計画・研究法など）。

帰国後は沖縄海洋研究所や淡島マリンパークなどで動物のトレーニング・ケアにかかわりながら飼育担当者の養成、アドバイスをを行う。

動物生態学Ⅱ

授業の目的・概要

近年環境教育や野外活動の需要は高まっている。自然観察の指導者として、野外活動中の危険予測、事故回避、事故発生時の迅速な対応が求められている。講義だけでなく、止血法、運搬なども学び、実践的な指導者を目指そう。

科	生命科学科	教員	佐崎 順
コース	動物園ゼミ	教員の実務経験	専門学校教員 33 年
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

- ＊自然環境下での生物の生態を理解することができる
- ＊生物地理区について理解することができる
- ＊資源管理の方法を習得することができる

授業計画

- 1 回 生物の数の増え方①（マルサスモデル）
- 2 回 生物の数の増え方②（自然界の中でみられるマルサスモデル：こう害）
- 3 回 生物の数の増え方③（ロジスティックモデル、環境収容力）
- 4 回 生物の数の増え方④（自然界の生物に人間の手が加わった場合）
- 5 回 島嶼生態学①（島のサイズと環境収容力、個体数の関係）
- 6 回 島嶼生態学②（大陸島と海洋島、固有種の特徴と違い）
- 7 回 島嶼生態学③（大陸島と海洋島、固有種の特徴と違い）
- 8 回 生物の性①（生殖の進化：無性生殖、有性生殖）
- 9 回 生物の性②（植物：孢子、種子、重複受精など）
- 10 回 生物の性③（雌雄同体、雌雄異体）
- 11 回 生物の性④（性転換）
- 12 回 生物の性⑤（性的二型）
- 13 回 生物の性⑥（性淘汰、雌雄単独型、一夫一妻型の特徴）
- 14 回 生物の性⑦（一夫多妻型、レック型、スクランブル型、母系集団）
- 15 回 生物の性⑧（母系集団、乱婚型）

- 16 回 前期の振り返り
- 17 回 生物の寿命（種による寿命の違い、性別による寿命の違い）
- 18 回 生物の寿命（異種間における寿命：生涯脈拍数と寿命①）
- 19 回 生物の寿命（異種間における寿命：生涯脈拍数と寿命②）
- 20 回 生涯脈拍数以上に生存できる生物の特徴
- 21 回 生物の寿命（同種間における寿命）
- 22 回 生物地理区（世界に生息する植物：全北界～南極界）
- 23 回 生物地理区（動物地理区の特徴：なぜこの地域は種数が多いのか）
- 24 回 生物地理区（世界に生息する動物：旧北区、新北界）
- 25 回 生物地理区（世界に生息する動物：東洋区、旧熱帯区）
- 26 回 生物地理区（世界に生息する動物：新熱帯区、南極区）
- 27 回 日本の生物地理区（ブラキストン線、矢田線、渡瀬線）
- 28 回 日本の生物地理区（蜂須賀線、三宅線、宮部線、対馬線など）
- 29 回 後期の振り返り
- 30 回 資源管理（ラッセルの資源動態理論の概念）

授業の方法

- *本講義では、具体的な例を挙げて説明する

教材

- *ニューステージ 新生物図表（浜島書店、2026）
- *授業で使用する教材は、必要に応じて授業内で適宜配布する。

評価の方法

- *試験 50%、授業への参画 20%、課題への取り組み 30%で総合的に評価する。
- *前・後期一回ずつ抜き打ちでノートチェックを行う。講義内容だけでなく、事後学習の内容も確認する

授業外での学習方法

- *事後授業として、授業内で疑問に思ったことを抽出し、自身で調べその結果をノートに書き出そう
- *動物に関する書籍や図鑑を熟読すること

実務経験と授業科目の関係

2026 年度

* 生物分類技能検定 3 級資格保有

* サンゴ礁や熱帯雨林での調査・研究の経験がある

* 海洋生物（魚類、サンゴなど）の調査・研究の経験あり

* 環境省 みどりの国勢調査 静岡県 調査責任者（1995 年度）

動物認知心理学

授業の目的・概要

近年、水族館や動物園において、又、動物飼育における環境、行動エンリッチメントに続く第 3 のエンリッチメントとしても認知という語がもてはやされている。しかし認知という語は専門家の間でも幅広く曖昧である。認知とは狭義では頭の中に浮かんだ事を頭の中だけで操作する能力や抽象力、自分の事について客観的に考える能力である。けれども動物が何について考えているかよりも、動物の気持ち(情動)、つまり何が好きで嫌いか、何がしたいかを知ることが先決であり、認知というと人間中心な考え方にとらわれがちである。本授業では進化の視点を重視し、動物と何をしたいかという観点から、ただ眠っているだけの動物の認知能力の覚醒や新たな認知能力の開発を考える。このためには動物の認知を知るよりも、動物の気持ち(情動)を理解することが重要となることはいうまでもない。授業クラスのタイトルは比較認知だが動物と分かり合うために認知以前に重要なこと様々な認知能力の基盤となるものは動物の学習能力以外に何があるかを探し求める。

科	生命科学学科	教員	山本 聡
コース	200 セミ	教員の実務経験	有り
対象年次	2 年生	年間単位時間	1 単位

目標

前期 情動と感情の違いについて自分なりの根拠ある意見を持つ。心の理論について一般的な定義を説明出来る。様々な記憶について(感覚、短期、長期、意味、エピソード、ワーキング)正しく区別し、定義できる。ソマテックマーカ一説を理解し、理性について自分の意見を持つ。

後期 動物が道具を使っているか物を使って遊んでいるか適切に判定できる。幼獣にとっての「遊び」の重要性を理解しそのわけを説明できる。成獣にとっての遊びの機能について考えられる。「おもちゃ」を自分なりに定義する。動物の潜在能力について適切に注目できるようになる。

授業計画

- 1 回 対面：認知とは
- 2 回 オンデ：認知とヒトの言語、自意識。
- 3 回 対面：擬人化、人間中心主義。
- 4 回 オンデ：情動と感情、情動脳と Paul MacLean, 新皮質と理性、
- 5 回 オンデ：様々な記憶、記憶と情動、ダマシオの仮説。（2 年研修のため学級の半分休講）
- 6 回 対面：問題解決・認知・見通し、James Russell の快、不快の次元、ホメオスタシス。
- 7 回 クレイトンの記憶の実験と認知地図。1 年は研修のため半分のクラスは休講。
- 8 回 対面：心の理論とクレイトンの試み
- 9 回 オンデ：賢いハンスとモーガンの公準、オッカムの剃刀とザトウクジラの歌・ガゼルのストテイング。
- 10 回 オンデ：誤信念とサリーとアン・テスト、アタッチメントと対象の永続性
- 11 回 対面：視線と何を見ているか、何を考えているか。
- 12 回 オンデ：目印を使う：ビーコンとデッドレコニング、道順と地図
- 13 回 対面：リストとリスト間の関係
- 14 回 オンデ：モーリスの水迷路、カケスの実験、ハゼの実験。
- 15 回 対面：前期のまとめ。
- 16 回 対面：ピアジェの心の発達段階説と対象の永続性、ハーロウの実験
- 17 回 オンデ：動物の対象の永続性、アタッチメントと動物飼育、ボウルビィとアタッチメント
- 18 回 対面：模倣と観察学習としての模倣学習、ホワイトタンの実験。
- 19 回 オンデ：イモの食物を洗ってから食べる行動、ケーラーと洞察学習。
- 20 回 対面：コピー、伝染、あくび
- 21 回 オンデ：刺激強調と社会的距離。
- 22 回 対面：疑似模倣と意図性。
- 23 回 オンデ：遊ぶ動物とは、飼育と遊び、「おもちゃ」の注意点。
- 24 回 対面：幼獣の遊びと成獣の遊び。
- 25 回 オンデ：遊び行動の判定。
- 26 回 対面：遊び行動のさそい、セルフハンディキャップ、カーミングシグナル。

27 回 オンデ：動物の道具の使用、道具を使用しているかの判定、道具は道具。

28 回 対面：様々な動物の道具の使用、道具と文化、道具と身体。

29 回 オンデ：要・不要、顕在能力と潜在能力、動物飼育の未来と道具の使用。

30 回 対面：後期のまとめ

授業の方法

講義中心だが学生に意見を聞いたり、学生同士でディスカッションしたりする時間を随時設ける。

教材

特に無し。読んでおいた方が良いものは必要に応じて学生に紹介。

評価の方法

試験 80%、樹徳業への参画 20% で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業のコピーではなく、自分の考え、疑問に対する答えをまとめたオリジナルのノートを作る。

実務経験と授業科目の関係

ハワイ大学ケワロ湾海洋哺乳類研究所、生物学研究所で海洋哺乳類のトレーニング・ケアとそれらに必要な学問を学ぶ(比較認知学、行動生態学、生物学など)。

帰国後は沖縄海洋研究所や淡島マリンパークなどで動物のトレーニング・ケアにかかわりながら飼育担当者の養成、アドバイスを行う。

両生爬虫類学 II

授業の目的・概要

本授業では、一年に学んだ基礎の延伸として、飼育に関わる両生爬虫類の多様性を学ぶ。また、後半では、両生爬虫類に関連する学術論文を輪読することで最新の研究内容を知り、研究計画の構築と論理的な考察ができるようになる。

科	生命科学科	教員	原仕大朗
コース	ショップゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

両生爬虫類の飼育に係る餌や繁殖を理解することができる。

多様な種の生活史を理解して、飼育現場におけるメンテナンス及びトラブル処理ができるようになる。

後期

両生爬虫類に関する文献を輪読する。

データの取得・整理・報告に関する手法に習熟し、自身も調査・研究計画を作成できるようになる。

また、問題に対する論理的考察ができるようになる。

授業計画

- 1 回 ガイダンス
- 2 回 両生爬虫類学
- 3 回 両生類の基礎
- 4 回 爬虫類の基礎 1
- 5 回 爬虫類の基礎 2

- 6 回 両生類の摂餌
- 7 回 両生類の防御
- 8 回 爬虫類の摂餌
- 9 回 爬虫類の防御
- 10 回 両生類の繁殖
- 11 回 爬虫類の繁殖
- 12 回 遺伝
- 13 回 多様性と保全
- 14 回 調査方法
- 15 回 実際の研究
- 16 回 前期試験の振り返り
- 17 回 学術文献の調べ方
- 18 回 学術文献の発表の仕方
- 19 回 輪読計画の作成
- 20 回 学術文献の輪読
- 21 回 学術文献の輪読
- 22 回 学術文献の輪読
- 23 回 学術文献の輪読
- 24 回 学術文献の輪読
- 25 回 学術文献の輪読
- 26 回 学術文献の輪読
- 27 回 学術文献の輪読
- 28 回 学術文献の輪読
- 29 回 輪読結果の総括
- 30 回 後期試験の振り返り

授業の方法
講義
教材
必要に応じて参考資料を配布する。
評価の方法
試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。
授業外での学習方法
生物飼育施設での飼育管理、日常生活において生き物の観察を行いながら疑問を持つ
実務経験と授業科目の関係
あり

インタープリテーション

授業の目的・概要

本授業は、動物関連分野で必要となる企画力・表現力・情報整理力・協働力を総合的に身につけることを目的とする。「王子動物園ガイドツアー」の企画立案や資料作成、広告制作を通して、動物や施設の情報を分かりやすく伝える力を養う。また、学校紹介動画の制作では、グループでの役割分担や撮影・編集作業を通じて実践的な発信力を身につける。さらに、卒業研究のデータ化や発表準備を行うことで、論理的思考力や課題解決能力を高める。これらの活動を通じて、動物業界で求められる実践的な企画運営能力とプレゼンテーション能力の向上を目指す。

科目名	生命科学科	教員	荒田あかね
コース	動物園ゼミ	教員の実務経験	イルカショートトレーナー3年半
対象年次	2年	年間単位数	2単位

目標

イベントやショーを想定したアナウンスや解説において、内容を整理し、聞き手に配慮しながら分かりやすく自信をもって伝えることができるようになる。

授業計画

- 第1週 自己紹介/「王子動物園ガイドツアー」
- 第2週 「王子動物園ガイドツアー」下調べ
- 第3週 「王子動物園ガイドツアー」企画書作成
- 第4週 「王子動物園ガイドツアー」企画書修正/資料作成
- 第5週 「王子動物園ガイドツアー」資料作成（1）ーベース作成
- 第6週 「王子動物園ガイドツアー」資料作成（2）ー完成
- 第7週 「王子動物園ガイドツアー」広告作成（1）ーベース作成
- 第8週 「王子動物園ガイドツアー」広告作成（2）ー完成

第9週	「王子動物園ガイドツアー」最終調整/顔合わせ
第10週	「学校の紹介動画を作ってみよう」準備(1)ーグループ作成/案出し
第11週	「学校の紹介動画を作ってみよう」準備(2)ー企画書作成
第12週	「学校の紹介動画を作ってみよう」準備(3)ー企画書完成
第13週	「学校の紹介動画を作ってみよう」準備(4)ー動画撮影
第14週	「学校の紹介動画を作ってみよう」準備(5)ー動画編集
第15週	「学校の紹介動画を作ってみよう」準備(6)ー紹介文を作ろう
第16週	「学校の紹介動画を作ってみよう」準備(7)ー発表・評価会
第17週	「写真の説明ゲーム」準備
第18週	「写真の説明ゲーム」発表
第19週	卒業研究取り組み(1)ー仮定のデータ化
第20週	卒業研究取り組み(2)ー研究方法のデータ化
第21週	卒業研究取り組み(3)ー図や表の作成
第22週	卒業研究取り組み(4)ー結果のデータ化
第23週	卒業研究取り組み(5)ー考察のデータ化
第24週	卒業研究取り組み(6)ー原稿作成1
第25週	卒業研究取り組み(7)ー原稿作成1
第26週	卒業研究発表データ調整
第27週	卒業研究発表リハーサル(1)約20名
第28週	卒業研究発表リハーサル(2)約20名
第29週	イベント企画
第30週	イベント準備

授業の方法

実践

教材

2026 年度

なし

評価の方法

成果発表 80%、授業への参加意欲 10%、課題への取り組み 10%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

発表テーマを考え、まとめる。

実務経験と授業科目の関係

元ショートレーナーの経験を活かして話し方や伝え方を指導する。

トレーニング概論・実習Ⅱ

(授業概要)

本授業では、動物業界で求められる犬のトレーニングおよびケアに関する基礎知識と実践力を身につけることを目的とする。犬の適切な管理・取り扱い方法をはじめ、ボディランゲージやストレスサインの理解、家庭犬として必要なマナー教育や問題行動への対応について学ぶ。また、去勢・避妊、多頭飼育、ハンディキャップ犬やシニア犬との暮らし方など、多様な飼育環境に対応できる知識を習得する。後期では、学習理論や行動形成の仕組み、正の強化を中心とした科学的トレーニング手法について理解を深め、フリーシェイピングなどの実践的な技術を学ぶ。さらに、動物福祉や飼い主教育、QOL（生活の質）の向上についても考察し、人と犬が良好な関係を築くための支援ができる人材の育成を目指す。

科	生命科学科	教員	高山美左
コース	動物園ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位数	2単位

目標

前期

人と犬との生活について必要なハウスマナーの構築、教え方を理解する

後期

人と犬との暮らしの QOL を考え、クライアントに提供する知識、技術を得る

授業計画

1 学期

第1週 実習の諸注意の確認、犬の散歩等の管理と取り扱いの確認、班分け、担当犬決め

第2週 犬のボディランゲージ、ストレスサイン、カーミングシグナルの確認

第3週 人と犬との生活について、ハウスマナー/犬具の取り扱いについて

第4週 トイレトレーニング・ハウストレーニング

第5週 犬の去勢と避妊について

第6週 多頭飼育について

第7週 ハンディキャップのある犬との暮らし方

第8週 吠える犬の分類と防止・

第9週 甘噛み、いらすずら噛み、拾い食い防止と対応

第10週 子供のいる家庭での犬との関係づくり

第11週 嫌悪刺激によるトレーニングの弊害と動物虐待、暴力の連鎖

第12週	犬の飼い主の為のリーダーシップ教育とは
第13週	飼い主のモラルとマナーについて
第14週	リードプログラム
第15週	前期のまとめ
第16週	テスト
第17週	テスト
第18週	テスト返し・解答
第19週	犬の学習とは/拮抗条件付けとオペラント条件付け
第20週	行動の強化と消去
第21週	行動の般化と状況学習
第22週	正の強化とトレーニングの概念
第23週	強化の法則と強化スケジュール
第24週	強化子とは/二次性強化子とは
第25週	フリーシェイピングで行動をつくるには1
第26週	フリーシェイピングで行動をつくるには2
第27週	犬の健康と行動の関係
第28週	犬のボディコンディショニング
第29週	犬のシニア期における行動の変化
第30週	テスト
第31週	テスト
第32週	テスト返し、解答
第33週	シニア期のトレーニングとは
第34週	犬のQOLとは
第35週	後期のまとめ

授業の方法

実技実習を中心に進めていくが、一部の内容は座学も交えて説明する。

教材

テキスト、DVD、犬具、トレーニング用具等

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

実習犬の散歩等を通しての犬の管理や取り扱い

実務経験と授業科目の関係

あり、陽性強化法を用いた訓練を通し、正しい犬との関係性の構築の仕方を教える